

令和6年8月23日

香春町長 鶴我 繁和 様

香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
委員長 美谷 薫

第2期香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について

令和5年度に実施された総合戦略の事業及びデジタル田園都市国家構想交付金事業について、当委員会で効果検証を行った結果を、下記のとおり報告します。

なお、過疎地域持続的発展計画についても事業内容が一致することから、同時に検証を行っているものです。

記

1 総括

(1) 検証の経過について

検証の経過は下表のとおり。

日程	会議名	内容
令和6年8月1日	令和6年度 第1回委員会	【基本目標1】 1-1 農林業の振興 1-2 稼げる観光への転換 1-3 新規進出・創業支援の推進 【基本目標2】 2-1 移住の促進 2-2 住環境の整備

令和6年8月8日	令和6年度 第2回委員会	<p>【基本目標 1】</p> <p>3-1 出産子育てに対する経済的負担の軽減 3-2 子育て環境の整備 3-3 教育環境の充実</p> <p>【基本目標 4】</p> <p>4-1 住民主体のまちづくりの推進 4-2 地域公共交通</p> <p>【基本目標 5】</p> <p>5-1 情報発信力の強化</p> <p>【推進交付金事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある地域づくりによる移住・定住促進事業 ・人の流れや投資を呼び込む「新たな都市ブランディング」推進事業 ・テレワークの推進から広がる持続可能なまちづくり事業 ・旧香春小学校及び旧中津原小学校サテライトオフィス等整備事業
----------	-----------------	--

(2) 検証の結果について

総合戦略個別事業の検証結果については、別紙1の「推進委員会の意見」欄に記載のとおりである。

(3) 総評

第2期香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みは、別紙1に示す施策の結果から、事業評価がCとなった事業についても、次のステップに進むための前向きな事業内容及び体系の見直しであり、4年目についても概ね順調に事業進捗していると考える。特に、創業支援事業については廃校整備事業とうまく事業連携ができ、予想以上の結果を生んでいる。この、良い流れを他の施策にも繋げるため、柔軟できめ細やかな対応ができる体制を整えていって欲しい。また、施策の実施については、職員に町民に寄り添った意識や心ある行動が重要であると共有した。

今後については、国の事業フレームに当てはめるだけでなく、将来のビジョン、直面する課題、事業実施に伴うリスクを町全体で共有しながら香春町に合った施策や仕組みを構築し、引き続き「まち・ひと・しごと創生」を強力で推進していただきたいと強く望むものである。

香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員の意見及び事業評価

【基本目標 1】 やりがいのある「しごと」をつくる

1-1 農林業の振興

〔推進委員会の意見〕

農地・竹林バンクの活用や補助金を活用した農業機械の購入など一定の効果があつたことについては評価できる。

農林業については、町が直営で行う事業ではない点に加えて、後継者不足や耕作放棄地、荒廃森林問題などの問題が多く、目標の達成が難しい点は理解できる。例えば、祭りで竹を使うので「みんなで竹を切ろう」といった形で、町民が参加できるような雰囲気づくりで町全体を盛り上げるような視点を変えてみることを提案する。

また、町外で香春町のお米が美味しいという評価を受け、特にブランド力がなくてもアイデア次第で販路拡大している事例もあると聞いている。町が今後取り組もうとしている“減農薬・減化学肥料”の営農については、国内だけでなくインバウンド需要への対応も想定し、海外にも目を向けていって欲しい。

➤ 事業評価 C

1-2 稼げる観光への転換

〔推進委員会の意見〕

夏まつりや登山イベントなどで町外からの集客もあり、観光客入込客数が回復していること、各種イベントに積極的に参加していることは評価できる。香春町については、宿泊施設が少ないため観光消費額は食事と買い物がメインであり、目標値まで増やすことは難しいと考えている。

新しい事を大々的に行うより、今ある資源を活用しながら、ターゲット層を絞ってPRしていく方が効果的ではないかと考える。

➤ 事業評価 B

1-3 新規進出・創業支援の推進

〔推進委員会の意見〕

廃校等の施設整備がうまく創業支援などのソフト事業に繋がり、数値目標達成の成果が上がっており評価できる。

今後は、上手くいっているからこそ、どの段階までこの事業を継続すべきかという悩みが発生してくると考えられる。何故施策が上手くいっているのか再度検証しつつ、

自走できるものについては行政が手を引くことも大事である。持続可能な取組みにしていくために、行政だけでなく関係している団体とも十分に連携して行って欲しい。

➤ **事業評価 A**

【基本目標2】人口流出を防ぐとともに、本町への「ひと」の流れをつくる

2-1 移住の促進

〔推進委員会の意見〕

今回、ワনストップ対応できる体制を整えるため事業見直しを行ったことから評価をCとしているが、数値目標について達成に向けて順調に進んでいると感じられる。地域おこし協力隊事業については、一旦休止しているが、そのOBで構成された（一社）カワラカケルと協力しながら、移住・定住施策を推進して行って欲しい。今後の募集の方針を担当課から聴取したので、受け皿団体との調整等注力を図り、人材が活躍できる環境を整えて欲しい。

また、地域の方々とコミュニケーションをとりながら、役場などを通さない移住もその実態を調査することで何か良い施策のヒントが見えてくるのではないかと考える。移住相談に来られた方を、他の自治体へ流れないように、きめ細かな対応ができるよう努力して行って欲しい。施策評価材料の収集方法としては、転入申請書に簡易アンケート欄を準備し、手続きと同時に転入理由を把握するといったアイデア等も出された。

➤ **事業評価 C**

2-2 住環境の整備

〔推進委員会の意見〕

2-1の施策と同様、事業体制の見直しのため評価はCとなっているが、事業自体は数値目標達成へ向けた成果は出ており、評価できる。

他の自治体で、なかなか契約が成立しない物件については、リフォーム例など掲載し、費用や改修イメージをパッケージとして提示しているところもある。すぐに課題を解決する仕組みづくりは難しいが、ちょっとした工夫で現状を変えていくことができるとも考えられる。また、質の良い物件を増やすためにも、制度の周知については変わらず努力して行って欲しい。

➤ **事業評価 C**

【基本目標3】若い世代の出産・子育ての希望を叶えるとともに、教育環境を整える

3-1 出産・子育てに対する経済的負担の軽減

〔推進委員会の意見〕

各事業自体の成果としては、経済的な負担軽減に繋がっており評価できる。子育て施策については、保護者の負担軽減に繋がる様々な施策を行っているが、そのPRが十分されていないことが課題であると考えられる。

また、取組は評価できるが、数値目標である出生数の増加にはなかなか繋がらない現状があり、この取り組みを移住施策の一つのツールとして活用できるように工夫することを希望する。町内外に発信できる分かりやすいガイドブック作成等のアイデアも出たところであるが、まずは地道な取り組みを継続することが必要であるという意見もみられた。

➤ 事業評価 B

3-2 子育て環境の整備

〔推進委員会の意見〕

各課が連携し様々な事業を実施していることは評価でき、実際に事業を利用した経験のある委員からもその効果を重視する意見が出された。

数値目標である「支援センターの延べ人数」を目標値に近づけるためには、硬い雰囲気のある支援センターの敷居を低くし、行きやすい・行きたくなる雰囲気作りが必要である。国の制度における縛りなど、クリアしなくてはいけないことはたくさんあると思うが、子育て世代のニーズに対応できるように“国の制度+α”で対応して欲しい。ハードの整備は進んできているが、“α”の部分については、充実したソフト事業の展開や最終的にはそれに関わる「人（人材）」ではないかと考えられる。

➤ 事業評価 B

3-3 教育環境の充実

〔推進委員会の意見〕

コロナ禍で中止されていた事業を再開や様々な独自の取組を行っていることは評価できる。

昨年に比べ数値の実績が下がっている。年度ごとに対象母体が1学年ずつずれ、学年によりタイプも違うことから原因の特定は困難であるが、学校生活のどこかで無理が生じると、この指標に影響が出ると考えられる。“魅力ある学校”とはどういうものかをもう一度検討していただくとともに、先生方や子どもの負担軽減なども考えて欲しい。子供が学校に楽しく通う事が、一番親が安心して望んでいることであり、そのためには、楽しい魅力ある学校づくりに取り組んでいる人（先生）自身が、その取り組みを楽しめている必要がある。

➤ **事業評価 B**

【基本目標4】自らの課題を解決し、安心して暮らせる地域をつくる

4-1 住民主体のまちづくりの推進

〔推進委員会の意見〕

採銅所の地域運営組織については、全国から多くの視察が来ている成功事例となっており十分評価できる。また、採銅所地区の取り組みを参考とし、地域運営組織設立に向けて動いている地区もあり、良い流れができていていると思う。

自主防災組織については、新たな動きはあるものの形成までは至っていないが、組織の編成単位を統一することにこだわらず、各地区に何か防災を担う組織があるという事を重要視して欲しい。

両組織についても、全ての地区に同じような組織があるという公平性より、やりたい地区・やる気のある地区等、その集団に応じた組織構築の後押しに注力頂きたい。

➤ **事業評価 B**

4-2 地域公共交通の充実

〔推進委員会の意見〕

地域公共交通の充実という点については順調であり評価できる。

A I オンデマンドバスへの移行に対する周知も時間をかけて十分に行われており、事前登録件数も予想を上回っており住民の方の期待の高さが窺える。今後は、他の公共交通を維持していただくための施策や広域移動について検討していく必要がある。

また、今後はライドシェア制度の拡大を視野に入れ、各地域の状況に適した準備をしておく必要があると考えられる。

➤ **事業評価 A**

【基本目標5】情報発信力を強化して戦略を推進する

5-1 情報発信力の強化

〔推進委員会の意見〕

ホームページや各種SNS、プレスリリースと様々な方法で情報発信を積極的に取り組んでいることは評価できる。ホームページのアクセス数については、コロナ禍後どの団体でも減少しているため、見たいと思うようなページをつくる工夫が必要である。

今後は、新しい発見や繋がりのために、地元高校生を巻き込む等、情報発信の手前の「しかけ」や、募集型フィールドワークを行うなど、香春町の良いところを自ら発信するのではなく、発信してもらおう仕組みづくりにも力を入れて欲しい。

➤ **事業評価 B**